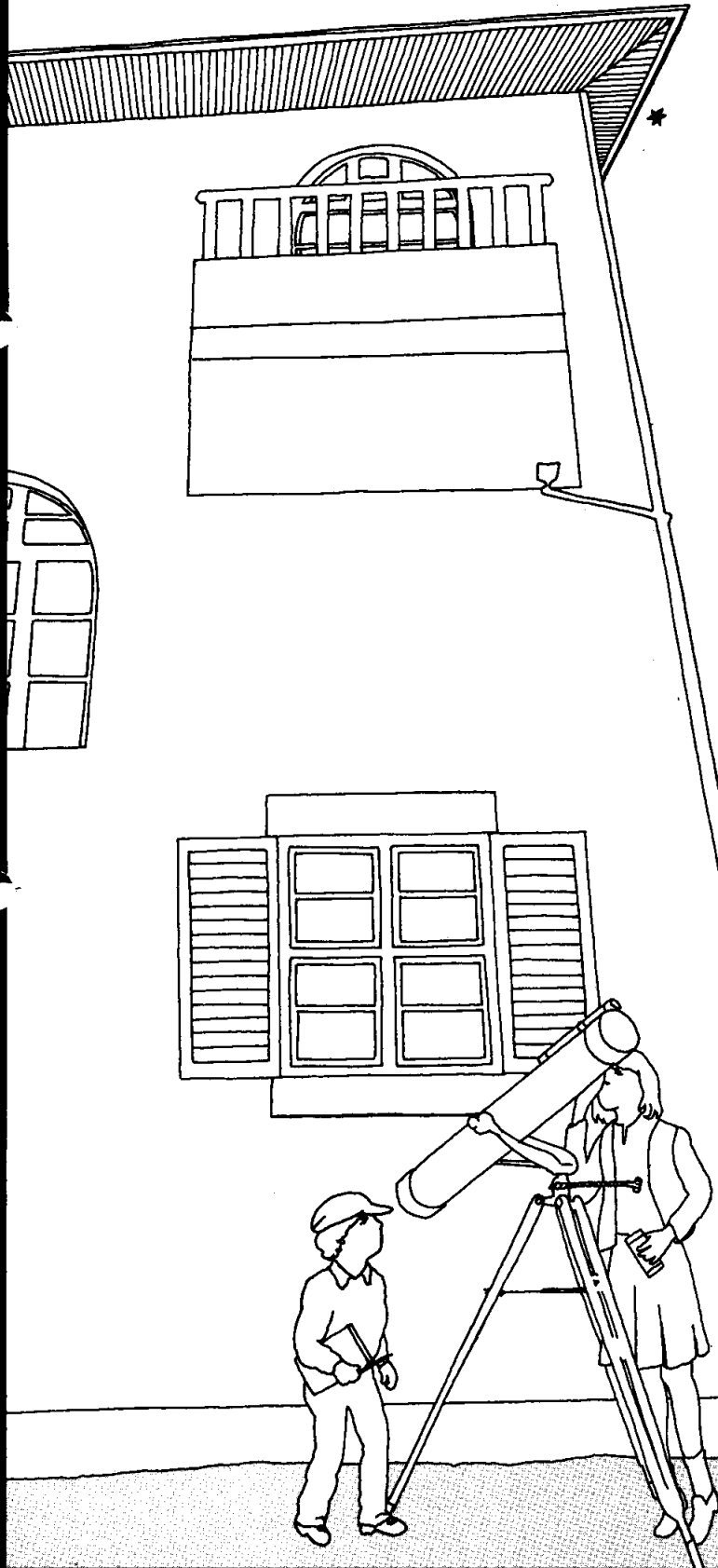


YAMAHA ELECTONETM

取扱説明書

C-200

楽しさは正しい理解から



80.9.2

ごあいさつ

このたびはヤマハエレクトーンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。エレクトーンは楽器づくり90年の経験をもとに、ヤマハが精魂こめてつくりあげた電子オルガンです。(エレクトーンはヤマハ電子オルガンの商品名です)。

エレクトーンはさまざまな楽器の音色を持ち、初心者の方でも手軽に楽しめる機能を数々取り入れていますから、ご家族の皆様全員でご利用いただけます。

本書ではエレクトーンの持つ多彩な機能を十分に楽しんでいただくため、正しい取り扱い方をご説明します。ぜひ譜面立てに置き、実際にエレクトーンを操作しながらお読みください。

目次

ページ

1. 楽しさは正しい理解から	2
2. まず音を出してみましょう	4
3. それぞれの機能の楽しみ方	
その1	6
その2	9
その3	15
その4	16
● 仕様と音域表	17
● 付属端子と音のエチケットについて	18
● 長くお楽しみいただくために	19
● エレクトーン教室のご案内	
● こんな現象は故障ではありません	20
● サービスと保証について	22
● エレクトーン豆知識	24

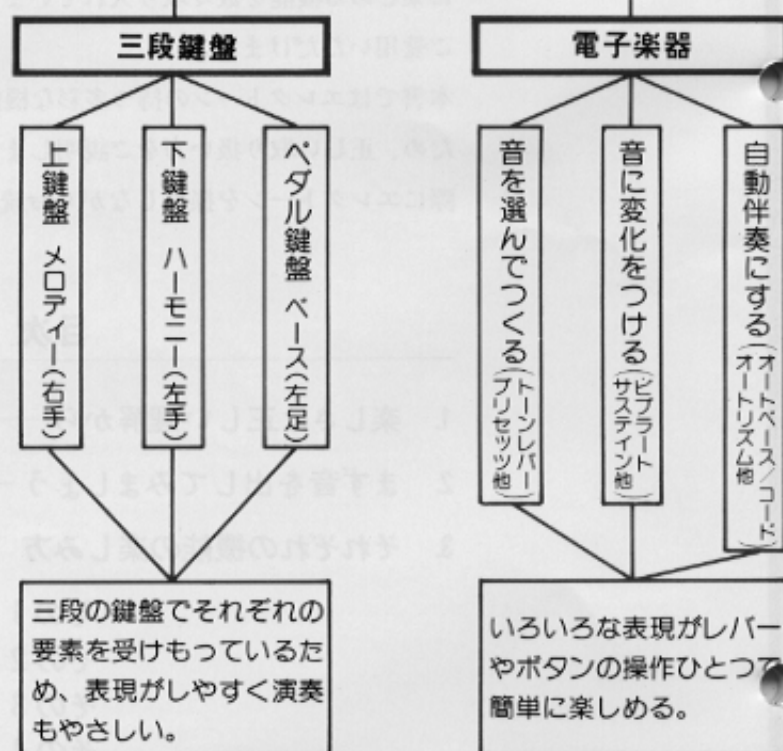
1 楽しさは正しい理解から

★エレクトーンはこんな楽器です。

エレクトーンは少しでも多くの人々に、楽器を演奏する楽しさを知っていただきたいという考えから生まれた、楽しく、やさしい楽器です。エレクトーンはメロディー、ハーモニー、ベースという三つの要素をそれぞれの鍵盤が一つずつ受け持ち、それらの要素を一つずつ加えていけば完成された音楽になります。ちょっと見ると三段も鍵盤があって難しそうな感じがしますが、この方が簡単に演奏ができるのです。また、レバーやボタンの操作ひとつで、いろいろな楽器の音が出せ、それらを組み合わせたり、変化をつけたりもできます。その上、指一本で和音がリズムに合わせて鳴る自動伴奏もできますから、いろいろな表現を簡単に楽しむことができます。



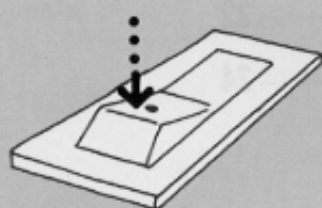
エレクトーンの特徴



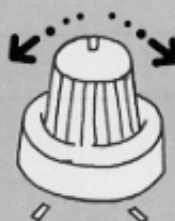
楽しく、やさしい楽器

★レバーやボタンなどの操作のしかた。

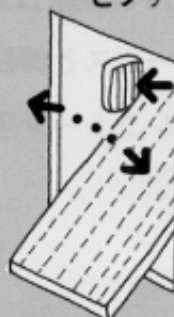
電源スイッチ



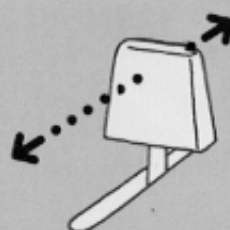
つまみ



エクスプレッションペダル
とフットスイッチ



トーンレバー



★各装置の役割

自動伴奏にする

音色を選ぶ

音に変化をつける

メロディーを
うけもつ上鍵盤

伴奏をうけもつ
下鍵盤

音量を調節する

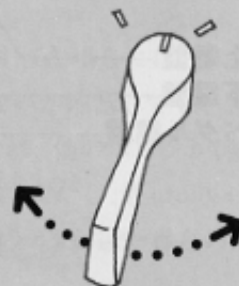
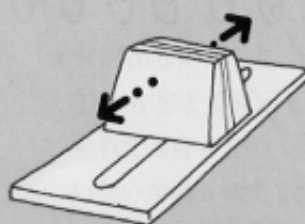
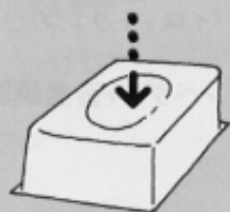
ベースをうけもつペダル鍵盤

セレクトボタン

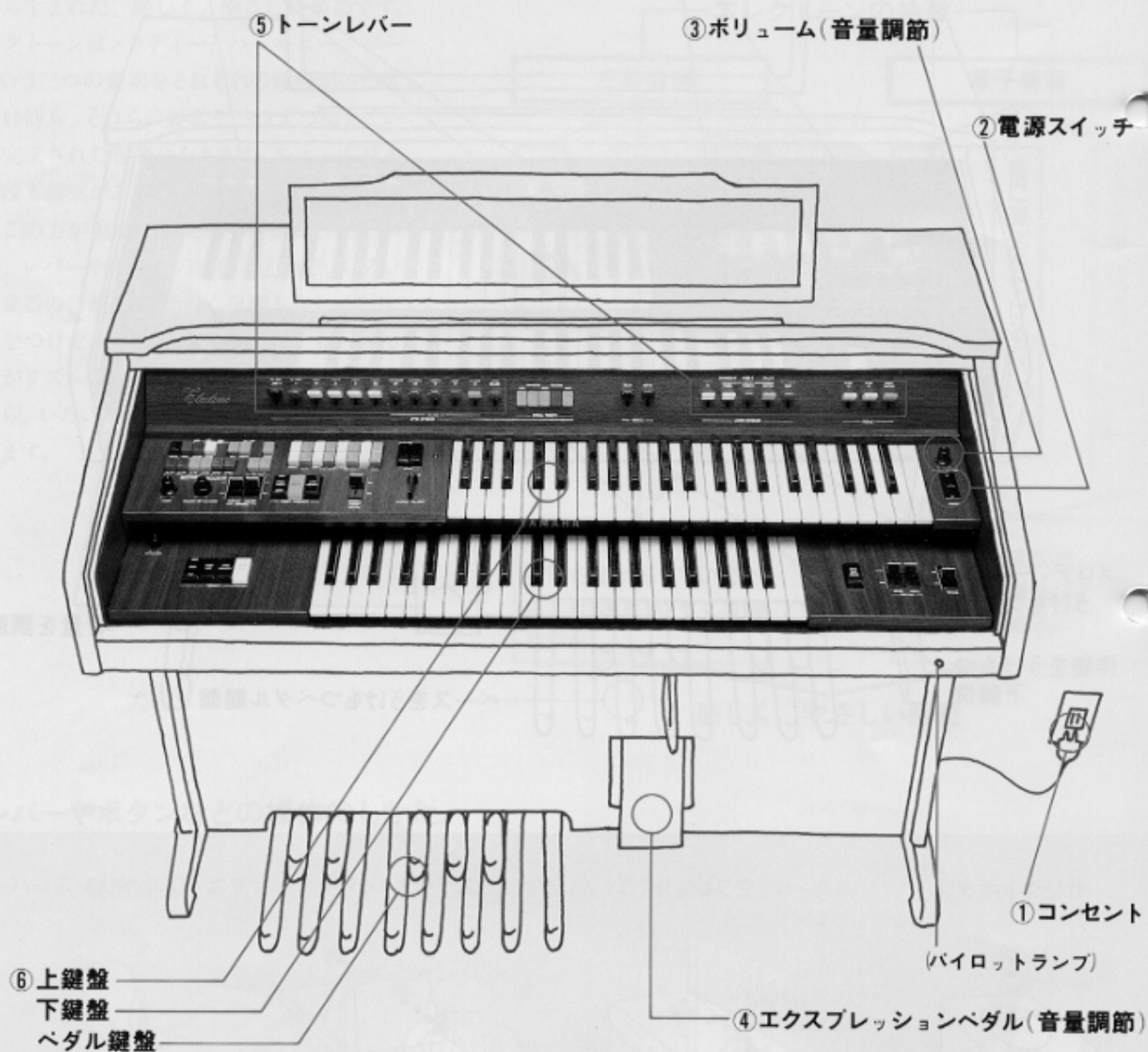
タブレット

スライドレバー

マニュアルバランスレバー



2 まず音を出してみましょう

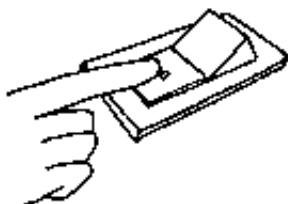


- ①電源コードをコンセントに差し込んでください。



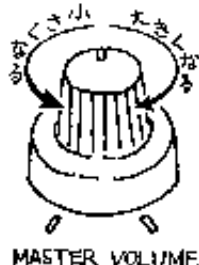
- ②電源スイッチを入れてください。

POWERと書かれたスイッチを入れます。エレクトーンに電気が通じると、パイロットランプが赤くつきます。



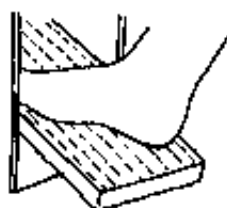
- ③ボリュームのつまみで音量を調節します。

MASTER VOLUMEと書かれたつまみで全体の音の大きさを調節してください。



- ④エクスプレッションペダルでも音量を調節します。

ペダル鍵盤の右側にあるペダルを踏んでください。これはエクスプレッションペダルといって、演奏しながら音量を調節するペダルです。これが戻っていると音が非常に小さくなります。



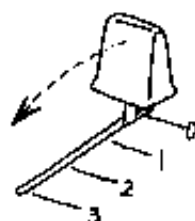
- ⑤トーンレバーで音色をセットしてください。

正面のパネルの左側に並んでいるレバーが上鍵盤トーンレバーです。このレバーは何種類でも組み合わせられますから、自由に選んで下にさげてください。正面の右側に並んでいる下鍵盤トーンレバー(LOWER KEYBOARD)とペダル鍵盤トーンレバー(PEDALS)もいくつか下にさげてください。



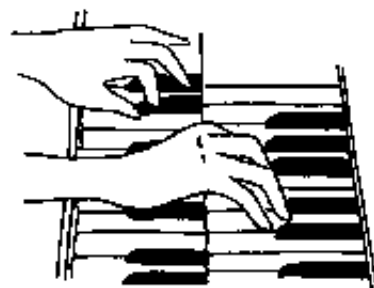
- ★トーンレバーはクリック

ストップ式といって、さげる途中2カ所に軽い手応えがあり、下にさげるほど音が大きくなります。



- ⑥鍵盤を押してください。

上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤をそれぞれ押してください。音が出たことと思います。



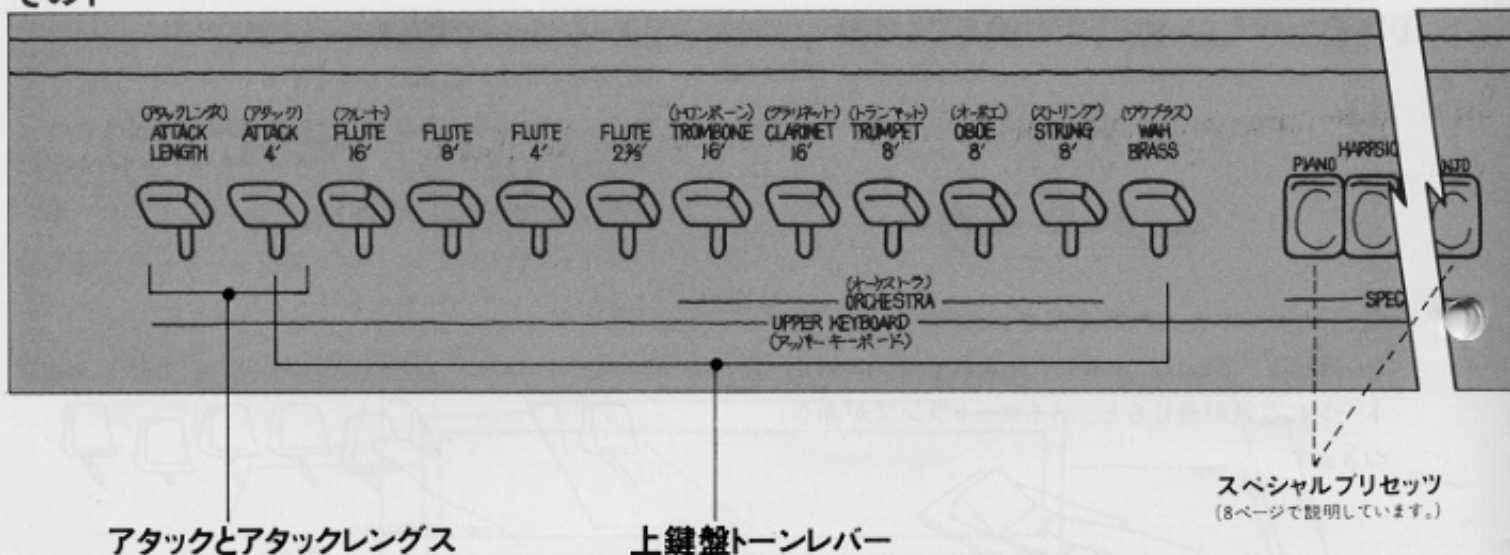
★音が出なかったり、小さすぎた場合には、もう一度、

①から⑤まで見落しがないか確認してください。それでも音が出ない場合は、他のボタンが押されていないか確かめてください。ただし、Auto Bass Chordと書かれているところのボタンは一番左の黒いボタンを押しておきます。

3 それぞれの機能の楽しみ方

ここからのページではエレクトーンのいろいろな機能をパネルごとに説明します。

その1



●上鍵盤トーンレバー(オルガンの音色)

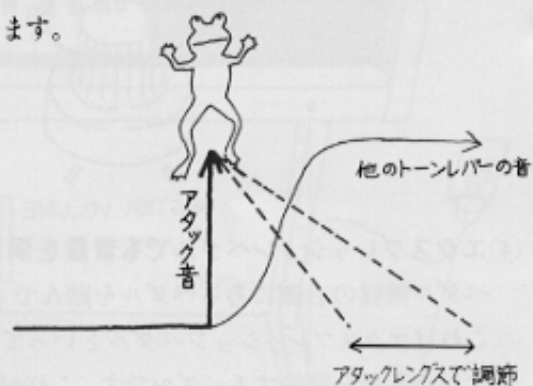
上鍵盤の音色をつくるレバーで11種類あります。このトーンレバーはいくつでも組み合わせることができます。

★8' は8フィートと読みます。フィート数のちがう音を組み合わせると、いくつもの鍵盤をおさえたのと同じような音が得られます(カブラー効果)。

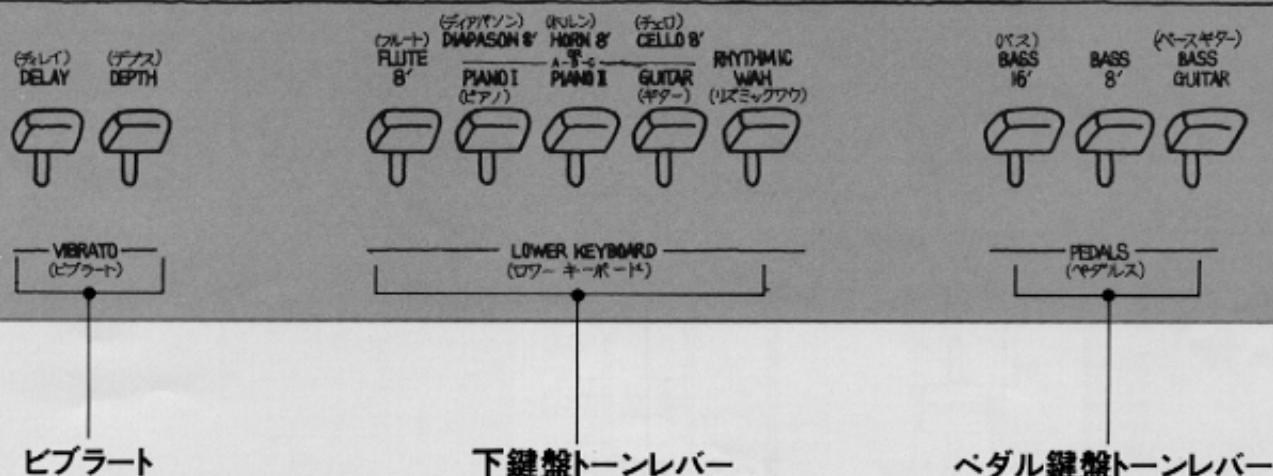
フィート数	実際に出る音	使われかたの例
16'	1オクターブ下の音	厚みを加える
8'	押した鍵盤と同じ音程	基本的な音
4'	1オクターブ上の音	8'に強さと明るさを加える
2 3/4'	1オクターブと5度上の音	かたい音にする

●アタックとアタックレングス

アタックは他のトーンレバーなどと組み合わせて使う音色で、音の立ち上がりを鋭くし、歯切れのいい音にします。



アタックレングスは、このアタック音の長さを調節するレバーで、下にさげるほど消えるまでの時間が長くなります。



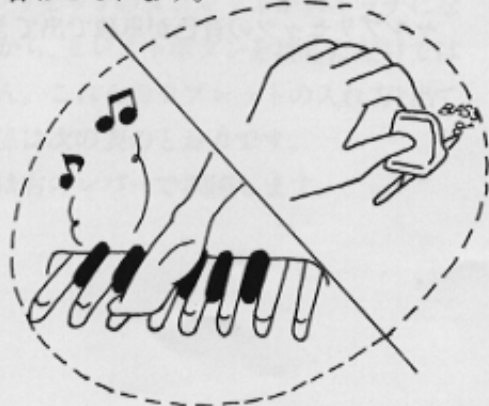
●下鍵盤トーンレバー

下鍵盤の音色をつくるレバーで5種類あり、いくつでも組み合わせることができます。

※リズムミックワウのレバーをオートリズム(11ページ参照)と一緒に使うと、リズムに合わせて音が「ワウ」という感じで出ます。

●ペダル鍵盤トーンレバー

ペダル(足)鍵盤の音色をつくるレバーで、3つのレバーを組み合わせられます。

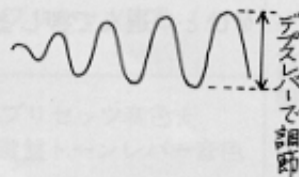


●ビブラート

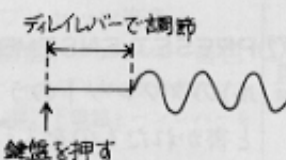
草笛のように音をこきぎみにふるわせ、うるおいをつける効果です。



DEPTH (デプス) レバーを下にさげるほど音のふるえ方が大きくなります。



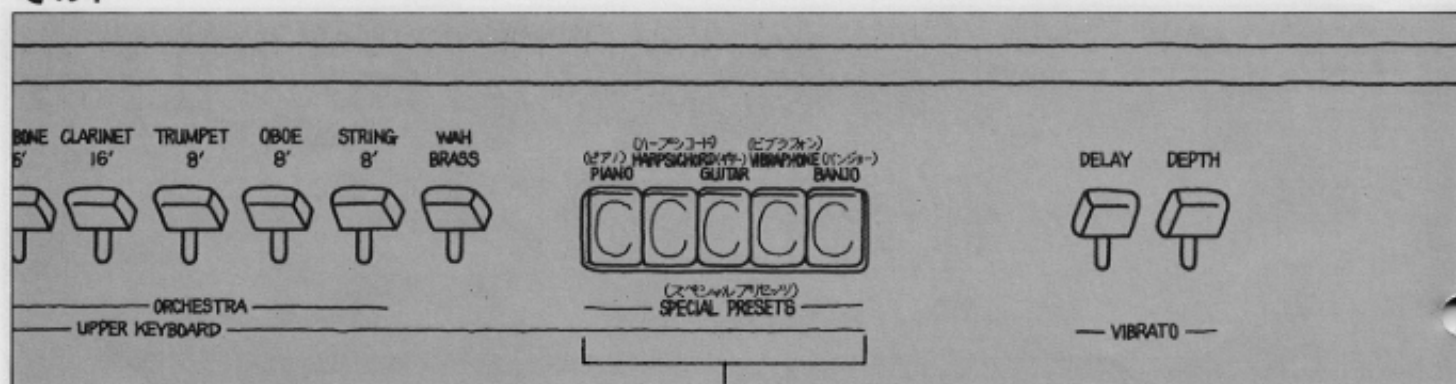
DELAY (ディレイ) レバーを一緒に入れると、鍵盤を押してから間をおいてビブラートがかかります。



※ディレイビブラートはデプスレバーを入れておかなければかかりません。また、上鍵盤の音にしか使えません。

3 それぞれの機能の楽しみ方

その1'



スペシャルプリセット

●スペシャルプリセット

スペシャルプリセットでは、実際の楽器音により近い音色があらかじめセットされています。

- ①SPECIAL PRESETS(スペシャルプリセット)
と書かれた5つのボタンの中から、好きな音色をひとつ選んで押します。



- ②PRESET ENSEMBLE(プリセットアンサンブル)のタブレットのうち、SPECIAL PRESETSと書かれたものを入れます。このタブレットがスペシャルプリセットのスイッチになっています。



(9ページ参照)

- ③SPECIAL PRESETS VOLUME(ボリューム)のレバーを手前に引いて、音量を調節します。

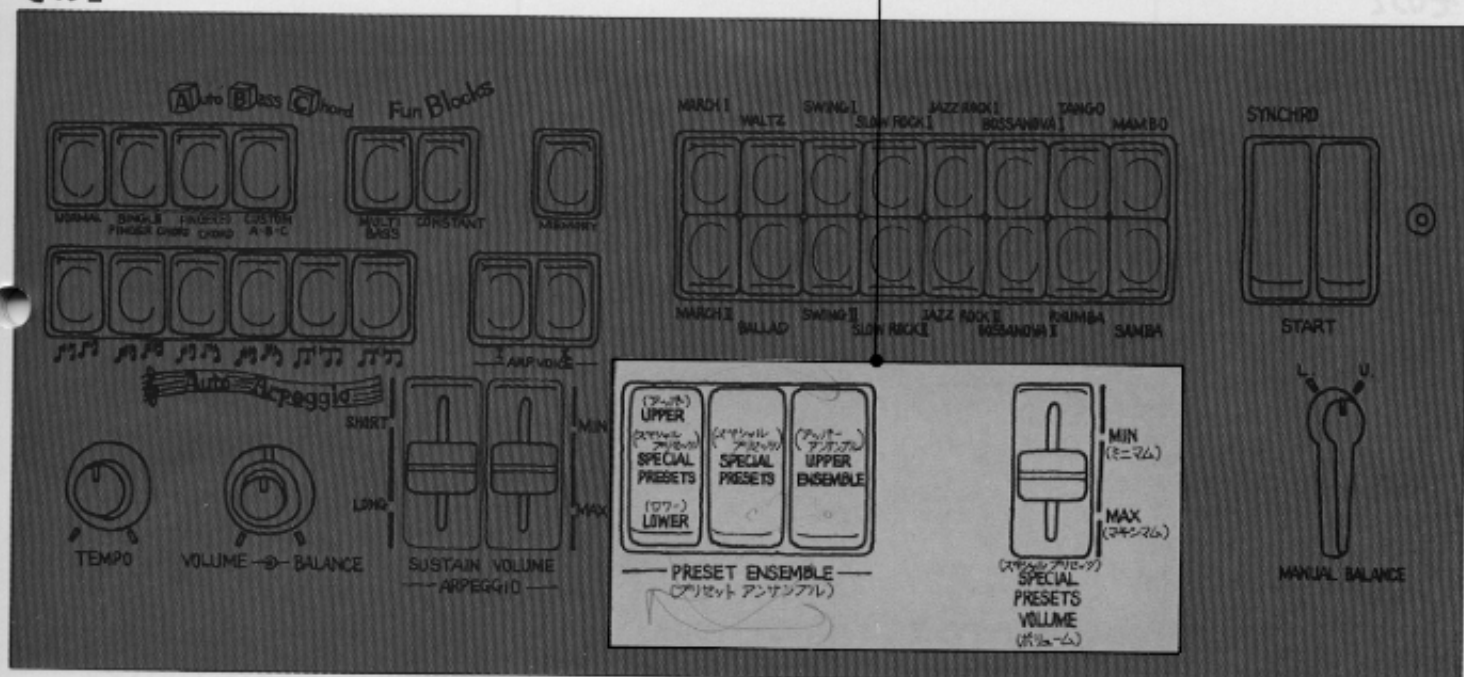


(9ページ参照)

このようにセットして上鍵盤をおさえると、スペシャルプリセットの音色が単独で出てきます。

プリセットアンサンブル

その2



●プリセットアンサンブル

スペシャルプリセットの音色の使い方を決めるタブレットで、それぞれの働きは下のとおりです。

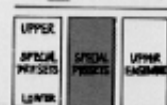
UPPER ENSEMBLE アッパーアンサンブル (黒)	上鍵盤トーンレバー音色と組み合わせる
SPECIAL PRESETS スペシャルプリセット (黄)	スペシャルプリセット音色のスイッチ
UPPER/LOWER アッパー/ロー (黒)	スペシャルプリセット音色を下鍵盤に移す

スペシャルプリセットのタブレットがスイッチになっていますから、セレクトボタンを押しただけでは音は出ません。これらのタブレットの入れ方と出てくる音の関係は次の表のとおりです。
なお、音量は右のレバーで調節します。

タブレットの
入れ方
(■を入れる)

出てくる音

(押す鍵盤)

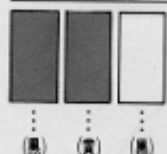


スペシャルプリセット音色

上鍵盤



スペシャルプリセット音色＋
上鍵盤トーンレバー音色



スペシャルプリセット音色＋
下鍵盤トーンレバー音色
★下鍵盤でスペシャルプリセット音色だけを出したいときには、下鍵盤トーンレバーを切ってください。

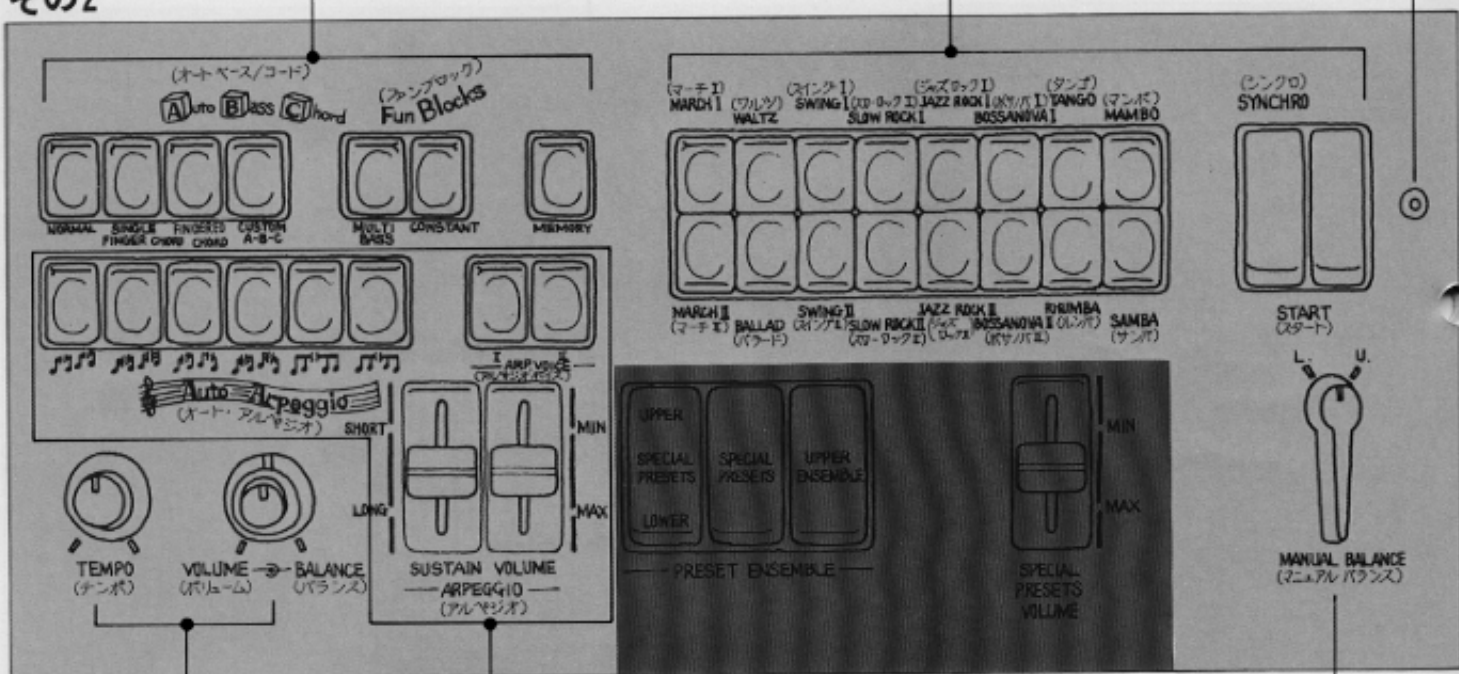
下鍵盤

オートベース / コード

オートリズム

テンポインジケータランプ
(リズムの速さに合わせて点滅するランプ)

その2'



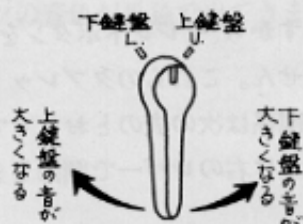
オートアルペジオ

マニュアルバランス

(オートリズムの速さ、音量、バランスを調節)

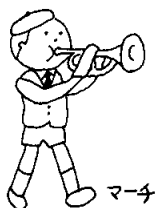
● マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスをとるレバーです。
普通は白い線が少しU(上鍵盤)の方にくるようにし
ます。



●オートリズム

シンバル、ドラム、ボンゴなどの打楽器音で歯切れのよいリズムを自動的にきざむ機能です。また、オートベース/コード、オートアルペジオ(12、13、14ページ参照)のスイッチの役割もします。

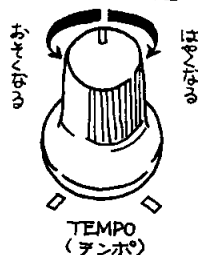


①MARCH I、WALTZ(マーチ I、ワルツ)などと書かれている16のボタンの中から、好きなものを選んで押してください。

②START(スタート)の2つのタブレットのうち、右側を入れるとリズムが鳴りはじめます。

※②で入れたタブレットをもどし、左側のSYNC HRO(シンクロ)を入れると、下鍵盤かペダル鍵盤を押すと同時にリズムが第一拍目から鳴りはじめます。

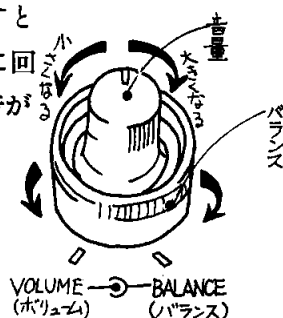
③TEMPO(テンポ)のつまみでリズムの速さを調節してください。



④VOLUME→BALANCE(ボリューム→バランス)の内側のつまみで音量を調節してください。

※外側のつまみは右に回すと

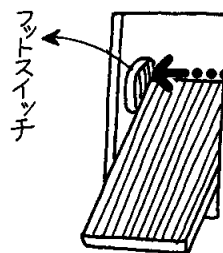
シンバル系の音が、左に回すとバスドラムなどの音が強調されます。



★リズムを選ぶセレクトボタンを同時に2つ以上押せば、リズムが組み合わせられます。ただし、MARCH I、MARCH IIのように縦に並んでいるものは組み合わせられません。

★テンポインジケータランプはリズムの第一拍目に赤く点滅します。シンクロのタブレットを入れているときは、下鍵盤かペダル鍵盤を押さないとリズムが鳴りませんが、ランプは点滅しますからリズムの速さを目で確認できます。

★フットスイッチを右足で押すとオートリズムを止めることができます。再び鳴らしたいときはもういちど押してください。



いはい、次のページでは
オートベース/コード
の説明をします。

●オートベース/コード(ABC)

下鍵盤をおさえるだけで、下鍵盤とペダル鍵盤の音の和音伴奏がつくれ、さらにオートリズムに合わせて自動的にきざまれる自動伴奏機能です。

まず、指一本だけによるリズム伴奏のつけ方を説明します。

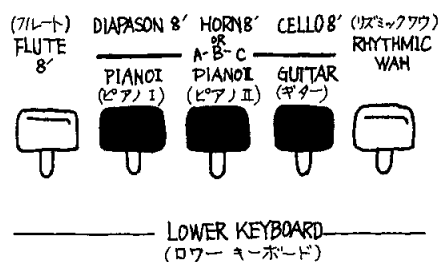
- ①まずオートリズムでお好きなリズムをきざませます。(11ページ参照)

※オートリズムはオートベース/コードと連動していて、スイッチの役割もしますから、必ずセットしてください。

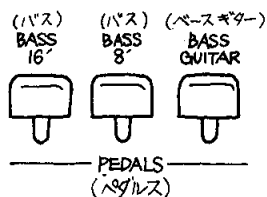
- ②次に下鍵盤トーンレバー(7ページ参照)のうち、PIANO(ピアノ) I、PIANO II、GUITAR (ギター)、と書いてあるレバーをいくつか下にさげてください。

これらはABCトーンといって、オートベース/コードを使うときの下鍵盤の音色になります。

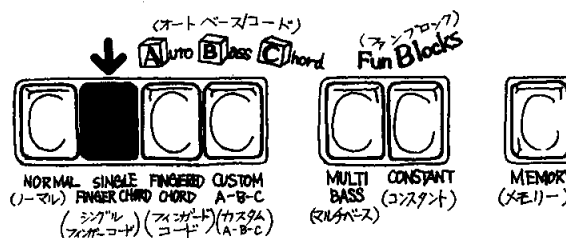
※下鍵盤のフルート音色はリズムをきざまず、和音の持続音になります。



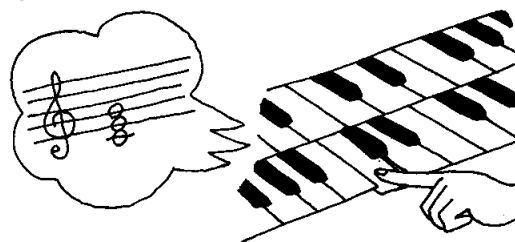
- ③ペダル鍵盤トーンレバー(7ページ参照)もいくつか下にさげてください。



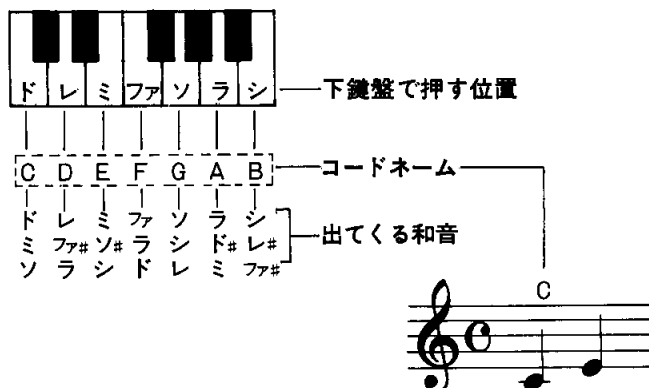
- ④SINGLE FINGER CHORD(シングルフィンガーコード)と書かれた緑色のボタンを押します。



このようにしてから下鍵盤のひとつを押すと、押された音がドの場合、ドミソの和音がリズムにのってきざまれます。

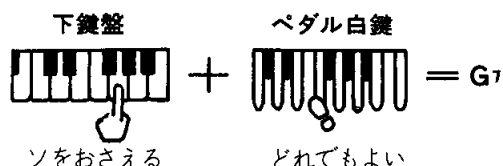


★下鍵盤で押す位置とでてくる和音(コード)の関係は下図のとおりです。コードネームの書いてある楽譜で、Cとある場合は下鍵盤のドを、Fとある場合はファをおさえればいいわけです。

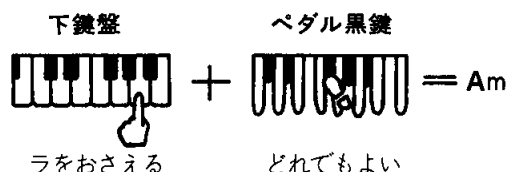


★セブンスコード、マイナーコードの場合。たとえばG7、Amというようなコードネームが楽譜に書かれているときは、ペダル鍵盤と一緒に踏むことで、その和音がだせます。

セブンスコードにするには、下鍵盤と同時に、ペダルの白鍵のどれかを踏みます。



マイナーコードにするには、ペダルの黒鍵を同時に踏みます。

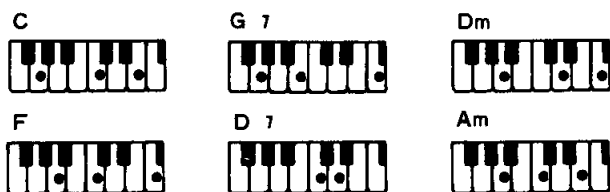


m7(マイナーセブンスコード)ではペダルの白鍵と黒鍵の両方を踏みます。

★FINGERED CHORD(フィンガードコード)の使い方。

まずオートリズムとトーンレバーをセットしておきます。

次に赤いフィンガードコードのボタンを押します。このボタンにすると指一本ではなく、下図のようにおさえた通りの和音でリズム伴奏をきざみます。コードを知っている方はシングルフィンガードを使うよりも便利かもしれません。



★MEMORY(メモリー)の使い方。

他のABCのボタンと一緒に押すと、下鍵盤から指を離しても、自動伴奏の音がそのまま鳴り続けます。これを使うとコードが変わるところだけで鍵盤を押しなおせばよいわけです。

★MULTI BASS(マルチベース)の使い方。

シングルフィンガードコード、フィンガードコードなどと一緒に使うボタンで、自動伴奏のベース音が変わります。

※例えばJAZZ ROCK I(ジャズロックI)のリズムのベース音は



ですが、マルチベースを押すと



となります。

★その他のABCボタンの使い方。

CONSTANT(コンスタント)

シングルフィンガードコードのボタンと一緒に押すと、オートリズムが下鍵盤、ペダル鍵盤の音から切り離され、リズムはリズムで鳴り、下鍵盤の和音とペダル鍵盤のベース音は持続音で鳴り続けます。メロディーがリズムに追いつかない方には便利です。

CUSTOM A-B-C(カスタムABC)

自動伴奏において下鍵盤とペダル鍵盤の音の連動が切り離され、別々にオートリズムにのります。下鍵盤とペダル鍵盤を別々におさえなければなりませんが、別々に練習できる便利さもあります。

NORMAL(ノーマル)

オートベース/コードを使わない時はこのボタンを押してください。オートベース/コードが働かなくなります。